

～院長コラム～

『劇的漢方症例 アトピー性皮膚炎の1例』

16歳の女子(高校1年生)。県外からの受診です。

6月上旬に当院初診の方です。乳児期からアトピー性皮膚炎があり、いろいろな治療を受けてきました。それなりに落ち着いていましたが、中3の冬から再び症状が悪化してきたそうです。

体格の良い、声も大きく自分でしっかりお話をされます。顔、カラダ、四肢が赤くなってやや腫れぼったくなっています。陸上部のマナージャーをやっているため日焼けをしています。深夜0時に就寝し、5時半に起床する生活だそうです(大丈夫?)。スキンケアをしっかりとやっておられ、保湿剤もしっかり塗ってあります。

手指、肘、肩の皮膚が特に赤くかゆそうで、引っ掻いて一部膿痂疹(とびひ)状態になっています。右肋骨下、みぞおちを押えると痛い、おへその左側に腹部動悸を触れます。あとは特に大きな異常を認めません。

これといって漢方薬が思い浮かばなかったのですが、毎日部活で疲れるだろう、汗もたくさんかくだろうと考え、カラダを元気にして汗をコントロールできればという思いで黄耆建中湯(おうぎけんちゅうとう)を出しました。

もう1つ。両手指が赤く腫れて、かゆいせいか掻いて傷ができ、皮向け状態で痛そうです。慢性的なアトピー性皮膚炎の炎症によって、皮膚内の微小血管の循環が悪いだろうと考え、桂枝茯苓丸加ヨクイニン(けいしぶくりょうがんかよくいにん)を追加しました。

1ヶ月後再診。漢方薬は飲んでいる、特に大きな変化はないが悪くならなくなった。その2週間後。この頃から皮膚が急にキレイになりはじめた。かゆみが止まり、皮膚がつるつとしてきた、手指もキレイになったと。笑顔で話をしてくれました。彼女の後ろに立られているお母さんも笑顔で何度もお礼を言われました。ありがたいことです。

県外からの受診なので、今後は2ヶ月に1回の受診にしました。膿痂疹の箇所は、外用剤を塗っても治らないと言われたので紫雲膏を刷り込んでもらったら、すぐ治ったと喜んでいました。

ガリガリかいて、皮膚が傷んでしまった時には紫雲膏は有効ですね。ただし紫雲膏はよく刷り込まないと、服などには紫色の色がついてしまうことがありますから注意しましょう。

「こども健康ネットブログ」より



なかしまこどもネット QRコード

※名前を入力して送信して下さい



こども健康ネットブログ

QRコード

なかしまこどもクリニック



通信

2014年9月号

なかしまこどもクリニック 瑞穂市十九条(パロー北)

ホームページ www.n-kodomo.com

診療時間		月	火	水	木	金	土	日
午前	8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	
午後	14:00~15:00		△		★	△		
	16:00~18:30	○	○			○		

★:漢方外来 14:00~17:30 受付

△:乳幼児健診及び予防接種



診療予約

058-327-4891

お問い合わせ

058-327-3100